

骨 科
急 診
手 冊

卢传新 主编

北京科学技术出版社

骨科急诊手册

卢传新 主编

*

北京科学技术出版社出版

(北京西直门外南路19号)

新华书店北京发行所发行 各地新华书店经售
北京朝阳区科普印刷厂印刷

*

787×1092毫米 32 开本 7.375 印张 157 千字

1990年一月第一版 1990年一月第一次印刷

印数1—7700册

ISBN7—5304—0545—4/R·63

定价：2.75 元

主 编

卢传新

副 主 编

黄承达 刘通显

编 者

(以姓氏笔划为序)

王远昌 卢传新 李佛保

陈昭勇 陈彦堃 郑万川

姚伦龙 黄承达 冯宝鉴

前 言

纵观骨科医林书海，专著甚丰，手册亦众，唯独未见急诊手册问世。对大多数基层骨科医师或兼做骨科工作的医务人员来说，有一本内容清新，条目分明，易懂实用而又便于携带的骨科急诊手册，据说是十分必要的。本着这种精神，我们编写了这本《手册》。

本《手册》曾得到叶衍庆教授、史济湘教授和马元璋教授等国内名家精心审阅和修改有关章节，使内容更加充实和丰富。书内插图由刘孟光绘制，吕国坤，林庆彪和林明侠同志负责誊写工作，《最新医药荟萃》编辑部海南分部及海南人民医院给予大力支持，值此一并表示感谢！

编者虽力求使《手册》臻美，但限于水平，缺乏编写经验，谬误在所难免，敬请读者提出宝贵意见。

编 者

1988年12月15日

目 录

第一章 现场急救	(1)
一、急救医学与现场急救.....	(1)
二、现场急救的目的与措施.....	(2)
(一) 保持呼吸道通畅.....	(2)
(二) 止血.....	(2)
(三) 封闭伤口.....	(4)
(四) 固定.....	(4)
(五) 止痛.....	(4)
(六) 休克的防治.....	(4)
(七) 感染的防治.....	(5)
(八) 断肢(指)的急救与处理.....	(5)
三、伤员的搬动与转运.....	(8)
(一) 急救固定.....	(8)
(二) 搬动.....	(8)
(三) 转运.....	(9)
第二章 骨科急救的基本技术	(10)
一、气管插管.....	(10)
二、人工呼吸.....	(11)
三、胸腔穿刺和闭式引流.....	(13)
四、心包穿刺术.....	(14)
五、心内注射.....	(15)
六、胸外心脏按压术.....	(16)
七、气管切开术.....	(17)

八、脉静切开术.....	(19)
九、动脉输血术.....	(20)
十、锁骨下静脉穿刺射管术.....	(21)
十一、关节穿刺术.....	(23)
十二、清创术.....	(25)
第三章 骨科治疗的基本技术.....	(28)
一、手法整复.....	(28)
二、撬拨复位法.....	(29)
三、牵引术.....	(30)
四、固定.....	(36)
(一) 外固定.....	(36)
(二) 内固定.....	(40)
第四章 骨科创伤严重合并症的急救处理.....	(43)
一、创伤性休克.....	(43)
二、多发性损伤.....	(46)
(一) 急诊处理.....	(48)
(二) 内脏损伤的处理.....	(48)
(三) 骨关节损伤的治疗.....	(49)
(四) 后续处理.....	(49)
三、挤压综合征.....	(50)
四、筋膜间室综合征.....	(53)
五、心跳骤停.....	(55)
六、呼吸窘迫综合征.....	(58)
七、急性肾功能衰竭.....	(61)
八、播散性血管内凝血.....	(64)
九、脂肪栓塞综合征.....	(66)
十、应激性溃疡.....	(69)

第五章 骨折概论	(71)
第六章 上肢损伤与骨折	(77)
一、上肢软组织损伤	(77)
(一) 冈上肌肌腱断裂.....	(77)
(二) 肱二头肌肌腱断裂.....	(78)
(三) 肱三头肌肌腱断裂.....	(79)
二、上肢骨折	(80)
(一) 锁骨骨折.....	(80)
(二) 肱骨外科颈骨折.....	(81)
(三) 肱骨干骨折.....	(82)
(四) 肱骨髁上骨折.....	(83)
(五) 肱骨髁间骨折.....	(85)
(六) 肱骨外髁(小头)骨折.....	(86)
(七) 肱骨内上髁骨折.....	(88)
(八) 尺骨鹰嘴骨折.....	(89)
(九) 桡骨头骨折.....	(89)
(十) 尺骨上1/3骨折合并桡骨小头脱位.....	(91)
(十一) 尺桡骨骨干骨折.....	(92)
1. 尺桡骨双骨折.....	(92)
2. 桡骨干骨折.....	(94)
3. 尺骨干骨折.....	(95)
(十二) 桡骨远端骨折.....	(95)
1. 科雷斯(Colles)骨折.....	(95)
2. 史密斯(Smith)骨折.....	(96)
3. 桡骨远端背侧缘骨折(巴尔通骨折).....	(97)
4. 桡骨远端掌侧缘骨折(反巴尔通骨折).....	(97)
5. 桡骨茎突骨折.....	(97)
(十三) 桡骨中下1/3骨折合并下尺桡关节脱位.....	(97)
(十四) 尺骨茎突骨折.....	(98)
三、手部损伤	(98)

(一) 手部开放性损伤.....	(98)
(二) 手部肌腱损伤.....	(100)
(三) 腕部切割伤.....	(103)
(四) 手部套状皮肤撕脱伤.....	(104)
(五) 指端外伤性缺损.....	(105)
(六) 手部骨折.....	(107)
(七) 手部常见的闭合性脱位和韧带损伤.....	(112)
第七章 下肢损伤与骨折.....	(116)
一、下肢软组织损伤.....	(116)
(一) 伸膝装置损伤.....	(116)
(二) 跟腱断裂.....	(117)
(三) 下肢大片皮肤撕脱伤.....	(119)
二、下肢骨折.....	(121)
(一) 股骨头骨折.....	(121)
(二) 股骨颈骨折.....	(121)
(三) 股骨粗隆间骨折.....	(124)
(四) 股骨干骨折.....	(125)
(五) 股骨髁上骨折.....	(127)
(六) 股骨髁间骨折.....	(128)
(七) 髌骨骨折.....	(129)
(八) 胫骨髁部骨折.....	(131)
(九) 胫腓骨骨折.....	(132)
(十) 踝部骨折.....	(134)
(十一) 距骨骨折.....	(136)
(十二) 跟骨骨折.....	(138)
(十三) 足部其他骨折.....	(141)
第八章 脊柱与脊髓损伤.....	(144)
一、颈椎骨折、脱位.....	(146)
(一) 颈椎1(环椎)骨折(Jefferson骨折).....	(146)
(二) 颈椎2椎弓根骨折(Hangman骨折).....	(147)

(三) 齿状突骨折.....	(147)
(四) 环枢椎脱位不伴有齿状突骨折.....	(148)
(五) 环枢椎脱位合并齿状突骨折.....	(149)
(六) 颈椎3-7骨折及脱位.....	(150)
二、胸腰椎骨折、脱位.....	(153)
(一) 屈曲型骨折.....	(153)
(二) 侧弯型骨折.....	(154)
(三) 伸直型骨折.....	(154)
(四) 垂直压缩型骨折.....	(154)
(五) 屈曲旋转型骨折脱位.....	(155)
(六) 剪刀型骨折脱位.....	(156)
(七) 分离骨折(包括Chance骨折).....	(156)
(八) 横突骨折.....	(156)
三、脊髓损伤.....	(157)
第九章 骨盆骨折.....	(163)
第十章 四肢关节损伤与脱位.....	(171)
一、损伤.....	(171)
(一) 外伤性膝关节血肿.....	(171)
(二) 膝关节韧带损伤.....	(172)
(三) 膝关节半月板损伤.....	(179)
(四) 踝关节韧带损伤.....	(181)
二、脱位.....	(183)
(一) 肩锁关节脱位.....	(184)
(二) 肩关节脱位.....	(185)
(三) 肘关节脱位.....	(188)
(四) 桡骨小头半脱位.....	(189)
(五) 髌关节脱位.....	(190)
(六) 膝关节脱位.....	(194)
第十一章 四肢血管损伤.....	(196)
一、血管损伤的原因及其特点.....	(196)

二、血管损伤类型·····	(196)
第十二章 周围神经损伤 ·····	(202)
一、上肢神经损伤·····	(203)
(一) 臂丛神经根部损伤·····	(203)
(二) 臂丛干段损伤·····	(205)
(三) 臂丛股段损伤·····	(205)
(四) 臂丛束(索)段损伤·····	(206)
(五) 腋神经(颈5~6)损伤·····	(206)
(六) 肌皮神经(颈6~7)损伤·····	(207)
(七) 桡神经(颈5~8胸1)损伤·····	(207)
(八) 正中神经(颈5~8胸1)损伤·····	(207)
二、下肢神经损伤·····	(208)
(一) 股神经(腰2~4)损伤·····	(209)
(二) 闭孔神经(腰2~4)损伤·····	(209)
(三) 坐骨神经(腰4、5骶1~3)损伤·····	(209)
(四) 胫神经(腰4、5骶1~3)损伤·····	(209)
(五) 腓总神经(腰4、5骶1~2)损伤·····	(210)
第十三章 感染 ·····	(213)
一、急性化脓性感染·····	(213)
(一) 急性化脓性骨髓炎·····	(213)
(二) 急性化脓性关节炎·····	(214)
(三) 手部急性化脓性感染·····	(216)
二、特异性感染·····	(220)
(一) 气性坏疽·····	(220)
(二) 破伤风·····	(221)

第一章 现场急救

一、急救医学与现场急救

急救医学是一门综合性的新兴医学。它的发展反映着一个国家医学科学管理和医学技术的水平。现时国内、外对急救医学的研究正在蓬勃发展，方兴未艾。急救工作日趋系统化，专业化，现代化。在许多先进国家已建立起急救中心和各种专业性医疗急救网络，分区分段分片包干负责急救工作。我国的急救医学起步较晚，但发展较快。目前北京、重庆两地已建立起急救中心，各种急救网也相继在全国各地创建。急救医学在医学领域中的重要地位正逐渐确立，可以预见不久的将来会有更大的发展。

随着我国社会主义建设事业的发展，各种致伤因素所造成的骨科伤员也不断增多。其中病情急骤、病状危笃者甚众，抢救机会一纵即逝。因此，如何抓紧时机，采取确实有效的急救措施，争分夺秒地将伤员从死亡或伤残的威胁中抢救过来，这就是现场急救的目的。因此，现场急救中的思维方法是否正确、技术措施是否有效，直接关系到伤员的伤残程度，甚至生命的安危。例如脊柱骨折的伤员，由于不正确的搬动或转送，可能导致脊髓损伤而造成瘫痪。血管损伤的伤员，由于急救措施失当，可能导致休克甚至死亡。对于外伤离体肢体，如果现场处理或保存措施不当，可失去再植的机会。骨断端外露的伤员，如果盲目将外露骨端回纳，可引起严

重感染，甚至被迫截肢。此外，仅仅由于不正确地使用止血带，造成神经麻痹或组织坏死者也屡见不鲜。因此，正确的现场急救是整个治疗过程的良好开端，也是保障伤员生命安全、避免伤残的重要步骤。

(卢传新)

二、现场急救的目的和措施

(一) 保持呼吸道通畅

在现场急救中应放在优先位置，迅速采取下列措施：

1. 将伤员平放于空气流通的地方，颈部呈过伸位，解开领扣，头歪向一侧。
2. 迅速清除口腔或上呼吸道的异物、血块、分泌物及呕吐物。
3. 舌根后坠阻塞呼吸道者，将舌头牵出口外。
4. 上呼吸道阻塞窒息者，立即用大号针头作环甲膜穿刺。有条件可行环甲膜切开。
5. 呼吸停止者，立即行口对口人工呼吸。
6. 上述措施不能恢复正常呼吸者，应作气管内插管或气管切开。
7. 如心跳停止，需同时行心脏复苏。
8. 应用呼吸中枢兴奋剂。可拉明0.375~0.75g、洛贝林3~6mg作皮下、肌肉或静脉注射，交替使用。可每1~2小时重复一次。
9. 针刺穴位，如人中、涌泉、太冲、内庭等。

(二) 止血

止血不及时或不彻底是引起伤员休克甚至死亡的常见原

因。因此及时而彻底地止血是现场急救的又一重要原则。常用的有包扎压迫止血，知名动脉压迫止血，止血带止血和钳夹结扎止血4种。

1. 包扎压迫止血 用消毒或干净敷料填塞伤口，再用绷带缠绕压迫，即可止血。本法操作简单，效果好，并发症少，是行之有效、安全可靠的止血方法。

2. 知名动脉压迫止血 用手指压迫伤口近端的知名动脉止血。如在上臂的上段内侧用手指向肱骨方向压迫肱动脉，使上肢伤口止血；在腹股沟前方，向股骨方向压迫股动脉，使下肢伤口止血等。方法简单有效，但只能暂时性止血。

3. 止血带止血 止血效果确实，但如使用不当，可引起严重并发症，应慎用，使用时应注意：

(1) 止血带束扎部位：手指在指根，上肢在上臂上1/3，下肢在大腿中上段。

(2) 安放止血带部位应衬以一定宽度、厚度、平坦柔软的衬垫。

(3) 止血带束扎要松紧适度，以能止血为限。过紧易引起神经损伤，过松则只阻断静脉而加重出血。

(4) 止血带不宜过窄，以防压坏深部组织。如现场找不到合适的止血带，也可用粗弹性橡皮管或布带替代：后者将布带在束扎部位绕好后打结，结下插入一短棒，旋转布带至伤口不再出血为准。

(5) 准确地记录束扎止血带的开始时间，每小时（最长不得超过两小时）放松一次，通血10~15分钟后，如需要可重复束扎。有大出血或可能引起出血休克危险时，不可轻易放松止血带，尽快将伤员送到医院并向接诊大夫说明止血带

的使用情况。

4. 钳夹结扎止血 止血确实，但易损伤组织。较大血管损伤出血，在上述止血方法不易奏效时考虑使用。钳夹时应避免损伤正常血管，尽可能保留血管长度，以利血管的吻合或修复。

(三) 封闭伤口

用消毒敷料覆盖伤口，外用绷带包绕。必要时也可用清洁布类、毛巾或衣服等替代。胸腹伤有内脏脱出者，可用盆、碗倒扣保护脏器。颅骨凹陷骨折者，可用敷料垫高骨折四周，然后包扎伤口。四肢开放骨折骨端外露，暂不回纳，以免加重污染和组织损伤，留待清创时处理。大面积烧伤可用整块床单包裹，防止创面与外界接触。

(四) 固定

上肢骨折主要用小夹板固定，用吊带或三角巾悬吊于胸前或用绷带固定于胸壁。下肢骨折用夹板固定或缚在健侧腿上，有条件可固定在托马氏架上。

(五) 止痛

疼痛不但使伤员恐惧、烦躁，也易诱发休克或加重休克。因此，要及时使用止痛药物。如无颅脑损伤、胸腹伤或呼吸衰竭，可给度冷丁50~100mg或吗啡10mg（老年人或小儿忌用）肌肉注射。闭合性损伤者，可直接向伤部血肿内注入10~30ml%普鲁卡因止痛。

(六) 休克的防治

要注意休克的预防及治疗，包括止血、止痛、固定伤肢，缺氧者立即给氧。无消化道损伤的清醒伤员，可饮服温热饮料，如热茶、姜汤、清汤等。在可能条件下，应立即输液、

输血，并迅速将伤员送入就近医院救治（见“创伤性休克”条目）。

（七）感染的防治

应尽早使用抗生素。对于开放性损伤，应立即包扎封闭伤口，争取在伤后6小时内进行彻底清创，以防止感染。

（卢传新）

（八）断肢（指）的急救与处理

因创伤使肢（指）失去血液循环或严重缺血，不接通血管不能存活，称为断肢（指）。

完全性断肢：伤肢（指）与人体完全分离或仅有极少量组织相连，但手术时需将这部分组织切断者。

不完全性断肢：伤肢（指）大部分组织离断，仅有少量软组织相连。不接通血管，肢体将坏死者。

断指再植成功与失败取决于许多因素，例如伤员全身情况，断肢损伤程度，断肢是否得到正确的保护及设备条件和再植技术等。一般断肢再植成活率能达90%，断指再植成活率能达80%。再植肢（指）的成功，不但要求外观好，而且要求恢复有用的功能；功能未恢复者不能算再植成功。

1. 现场处理和断肢（指）的保存

（1）肢体被机器辗轧不能解脱时，最好的方法是停机，拆开机器，松脱肢体。切忌倒转机器或强行拔出肢体，避免加重肢体的损伤。

（2）肢体被切割完全断离，伤面无污物沾染者，不必作任何清洗，用多层清洁干敷料包裹断肢便可。断肢被泥土或油渍污染的，简单清洁后包裹。

（3）天气寒冷气温在10°C以下时，断肢不必冷藏，气温

超过 10°C ，断肢则需干燥冷藏送往医院：将断肢放入不透水的胶袋或塑料袋里，置于盛有冰块的容器内（如冰壶、塑料桶等），使肢体冷藏而不接触液体。切忌将断肢直接浸入冰水或消毒液中。

(4) 不完全性断肢行局部止血、包扎及固定后，可用冰袋作局部降温。若断肢仅有极少无血液循环的组织相连，可切断按完全性断肢处理。

(5) 病情不允许转送的伤员，简便的方法是将断肢放入冰箱中保存，等候再植。

(6) 断肢随伤员一同送医院。

2. 伤员抵达医院后的处理

(1) 仔细询问损伤时间及现场处理情况。

(2) 全面地处理伤员。如了解全身情况，有否合并其他脏器损伤，防治休克等。

(3) 检查伤肢情况。

(4) 常规X线照片，了解伤肢骨关节情况。

(5) 做好术前各项常规检查，准备手术器械等。

(6) 若需会诊，可先行断肢清创，然后放入冰箱保存，以免贻误时间。

(7) 原则上手术分两组进行，尽快重建断肢血液循环。

3. 断肢再植的指征

(1) 伤员全身情况良好，无休克或其他手术禁忌症。

(2) 断肢缺血时间最好在6小时以内。如在寒冷季节或经冷藏保护、离断平面低、切割伤、污染轻者，上述时限可适当延长。

(3) 断肢基本完整，包括血管、神经、肌肉和骨骼能够

修复而且估计能恢复功能者。如上肢从臂丛神经根部撕脱，神经不能修复或修复后功能不能恢复者，不应再植。下肢缩短超过10c m，再植后功能恢复不好的不再植。双肢完全断离不能原位再植的，可移位再植，争取恢复一侧肢体的功能。两个或多个断指，也可作移位再植。

(4) 具备再植的技术和设备。

4. 断肢（指）再植的禁忌症

- (1) 合并重要器官损伤或骨盆骨折大出血等。
- (2) 伤员患有严重疾病，如心脏病、糖尿病者。
- (3) 年老体弱者。
- (4) 火器性断肢。
- (5) 不具备上述再植指征者。

5. 再植肢（指）解脱指征

- (1) 再植肢（指）缺乏血液循环经处理无效者。
- (2) 断肢再植后，由于断肢组织无氧代谢产物吸收引起中毒性休克或肾功能衰竭者。
- (3) 局部感染引起全身中毒症状或局部血液循环障碍者。
- (4) 再植的肢（指）无功能，成为累赘物者。

〔预后〕

按断肢运动、感觉及植物神经的功能恢复：

1. 不完全性断肢、特别是神经未断者，其功能恢复较完全性断肢好。
2. 切割性断肢较撕裂性断肢预后好。
3. 低位断肢较高位断肢预后好。
4. 儿童较成年人预后好。
5. 指末节再植功能一般较好。

(黄承达)